

研究開発課題別中間評価結果

1. 研究開発課題名

高齢者の経験・知識・技能を社会の推進力とするための ICT 基盤「高齢者クラウド」の研究開発

2. プロジェクトマネージャー

廣瀬 通孝（東京大学大学院 教授）

3. 課題の概要

「高齢者クラウド」基盤は、「家庭生活から社会生活へ」「社会生活からコミュニティ参加へ」「コミュニティ参加から就労・起業へ」のように、家庭にこもりがちな高齢者に一段階先の社会参加を提案できる環境の構築を目的としている。これにより、高齢者自身の労働力提供のほか、高齢者の自立度向上による介護負担の低減、高齢者コミュニティのニーズを汲み取る新たなビジネス展開など、様々な経済効果を生み出すことを目指す。

4. 評価結果

（1）研究開発の進捗状況と成果の現状

モザイクの概念は高齢者の活用にとって重要であるが、各論の詰めが十分でないことから、拡散してしまう恐れがある。なお、NHK の teleda を用いた高齢者のコミュニケーション活性化の実証実験、および IBM のスキル抽出を目的としたデータモデルの検証実験については軌道に乗りつつあるが、本研究課題に対する具体的な成果への繋がりが見えにくいなどの課題がある。高齢者の社会参画に注力するなど焦点を絞り、取り組むべき課題を明確にするなど、実現可能性の高い具体的な計画が求められる。とくに、現在想定しているフィールドは幅が広く、個々のフィールドにおける横の関連性が希薄に感じられるため、もう少し横断的に評価できるフィールドを構築することが望まれる。

（2）今後の研究開発に向けて

課題と可能性を整理した上で焦点を絞り、明確な達成目標とそれを実現するための研究計画の提示が必要である。とくにシニアスキルの分析と分類（IT スキルのない人、管理業務しかスキルがない人など）の自動化技術は本提案のモザイクの成否に関わる根幹となる技術であるため、スキルの分析と分類については、根拠を示しながら検討を行う必要がある。また、既存のジョブマッチングシステムとの差別化を行うためにも、人材派遣会社を体制に組み入れていくことも考慮すべきである。また、NHK の teleda を利用した SNS については、NHK 自身での高齢者や地域を限定した運用が見込めないのであれば、それを受け持つ新たな企業の参画も検討する必要がある。

（3）総合評価

ステージⅡでは、事業者のニーズの分析・分類について検討し、その実証レベルでの実験を行うことが望まれる。さらに、NHK の SNS によるコミュニケーションとジョブマッチングとの連携も整理すべきである。実用化を考えた場合、早期に人材派遣会社を体制に組み入れていくべきであり、システム開発時に人による介入の影響と効果を検証することも必要である。特に、高齢者クラウドでスキルをどこまで引き出せるのか、登録者の真のスキル・能力を正しく反映できるシステムとすることを検討すべきである。なお、ウェアラブル ICT については、目的やアプローチが本課題の内容と異なっているため、改めてその取り扱いを決

める必要がある。上述の通り、研究開発計画と研究開発体制の見直しが望まれる。以上の結果から、総合評価を B とする。